

サステナビリティ方針・体制・目標

■ サステナビリティの考え方

マダムグループの事業活動は、「E：環境」や「S：社会」が健全で持続可能であることが大前提です。

しかし、気候変動や生物多様性の減少、海洋プラスチック問題、サプライチェーンにおける人権問題など、さまざまな問題が顕在化しており、適切な対応とそれを支える健全な「G：ガバナンス」体制の構築が必要であると考えています。

企業理念に掲げる「社会との共存・共生・共創」=マダムグループのサステナビリティそのものにとらえ、社会環境課題の解決に向けてサステナブル経営（ESG経営+SDGs経営）を根幹に据え、2021年度にはサステナビリティ方針の策定ならびに、サステナビリティ上の重要課題（マテリアリティ）を特

定し、本業を通じた取り組みによるお役立ちの進化と企業価値の創造を目指していきます。

国際社会の枠組みとマダムグループのサステナビリティ

2015年9月には、マダムグループの全社員が、社会の持続可能な発展に向けて国際社会と同じ価値観を共有し、多様で幅広いステークホルダーとの関係性を強化する新たな機会の創出などを目的として、「国連グローバル・コンパクト」に署名し、国連グローバル・コンパクトが提唱する4分野10原則への支持を表明しました。



■ サステナビリティ方針

健・清・美・楽を通じた、
日常生活の豊かさと社会課題の解決を両立する
独自のサステナブル経営を推進します

独自のサステナブル経営の構成要素

テーマ	内容
お役立ちの深さと広さの追求による生活者との強い絆創り	生活者満足の最大化と、生活者接点の拡大といった2つの側面におけるお役立ちを実現するため、独自性のある新たな価値を創造し、商品、コミュニケーション、流通を通じて、その価値を生活者に提供し続けます。
社会を支える人財の育成と多彩な人財による全員参画	人は企業の将来を担う重要な財産であるという考えのもと、社員全員を「人財」へと育て、その多彩な人財が働き甲斐を得て参画し活躍することで、会社の成長と社会へのお役立ちを拡大します。
善良なる企業市民としての持続可能な社会の実現への貢献	提供する商品・サービスはもちろんのこと、サプライチェーンを含めた企業活動全体を通じて、地球環境や社会へ及ぼす影響を長期的な視点で捉え、持続可能な社会の実現に貢献します。
ゴーイングコンサーンに向けた取り組み	社会との共存・共生・共創により、いつの時代もその時代を生き抜いていくダイナミズムとともに、あらゆるステークホルダーからその存在価値を認めていただける企業として発展し続けます。

4つのテーマの関係性

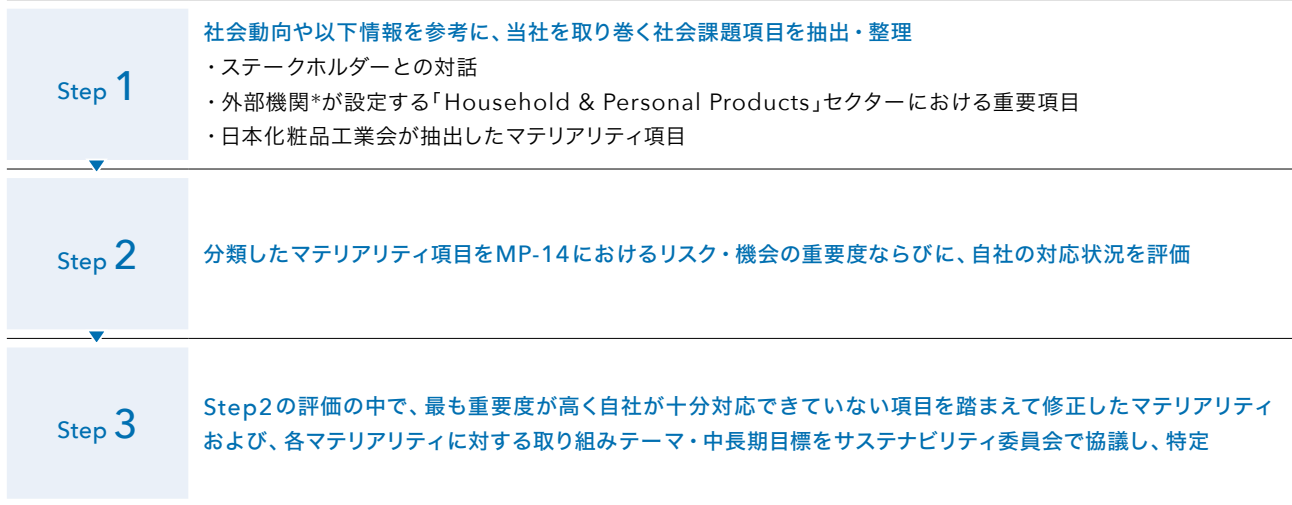
お役立ちの深さと広さの
追求による
生活者との強い絆創り

社会を支える人財の育成と
多彩な人財による
全員参画

善良なる企業市民としての
持続可能な社会の
実現への貢献

〈上記3テーマを中長期にわたって実現していくための基盤〉
ゴーイングコンサーンに向けた取り組み

サステナビリティ上の重要課題(マテリアリティ)の特定・見直しプロセス



*外部機関：FTSE、MSCI、SASB

■ サステナビリティ上の重要課題(マテリアリティ)

マテリアリティ	コミットメント	関連するSDGs
強みを活かした価値創造による未来へのチャレンジ		
1 気軽に楽しめるおしゃれ文化の創造 →P.44	「健康」「清潔」「美」の根底に、気軽に楽しむという「楽」軸を配した独自の「健清美楽」の概念を持ち、唯一無二のユニークな商品やサービスを提案することでときめきや晴れやかな気持ちを与え、多様な価値観を持つ生活者のなりたい自分を実現します。	
2 多様な生活者へのお役立ち拡大 →P.50	変化する生活者の多様な消費行動に対し常に臨機応変に対応し、生活者満足につながる商品・サービスが目に触れやすい、選択しやすい環境を整え、グローバル10億人にお役立ちします。	
3 社員と会社の相互成長の実現 →P.54	社員の成長への投資を通じて、多彩な個性と強みを持つ「人財」のパフォーマンスを最大化させることで、すべてのステークホルダーへのお役立ちを拡大します。	
社会と企業の持続可能性の実現に向けた課題解決		
4 持続可能な地球環境への取り組み →P.57	循環型社会への移行を目指し、脱プラスチックを含めた製品のライフサイクルにおける環境負荷低減への取り組みを進めます。特に温室効果ガスの削減については、2050年までに温室効果ガスの排出実質ゼロの実現を目指します。	
5 持続可能な原材料調達 →P.61	パーム油や紙などの倫理的な調達を行い、森林や生物多様性の保全に努める他、環境、労働環境、人権への対応など、サプライチェーン全体を通じて企業の社会的責任を果たします。	
6 企業基盤の継続強化 →P.64	わたしたちの使命はお役立ちを広く深く続けることであり、その前提としてゴーイングコンサーンがあります。安心・安全の確保はもちろん、理念経営を根幹としたさらなる企業基盤の強化を進めます。	

WEB : サステナビリティ情報
: サステナビリティ > サステナビリティ方針・体制・目標

■ サステナビリティ上の重要課題（マテリアリティ）に関する中長期目標と進捗

2021年度に当社はサステナビリティ方針とマテリアリティを特定し、取り組みを推進してまいりましたが、具体的なマテリアリティに関する評価指標と目標値の開示がなく課題ととらえておりました。2022年度から新設されたESG実行委員会において、取り組みテーマを精査・整理し、サステナビリティ

上の重要課題（マテリアリティ）に関する中長期目標を検討し、策定いたしました。今後は、最新の社会情勢やステークホルダーのご意見・ご期待を考慮し、マテリアリティの継続的な見直しを行いながら進捗報告も行ってまいります。

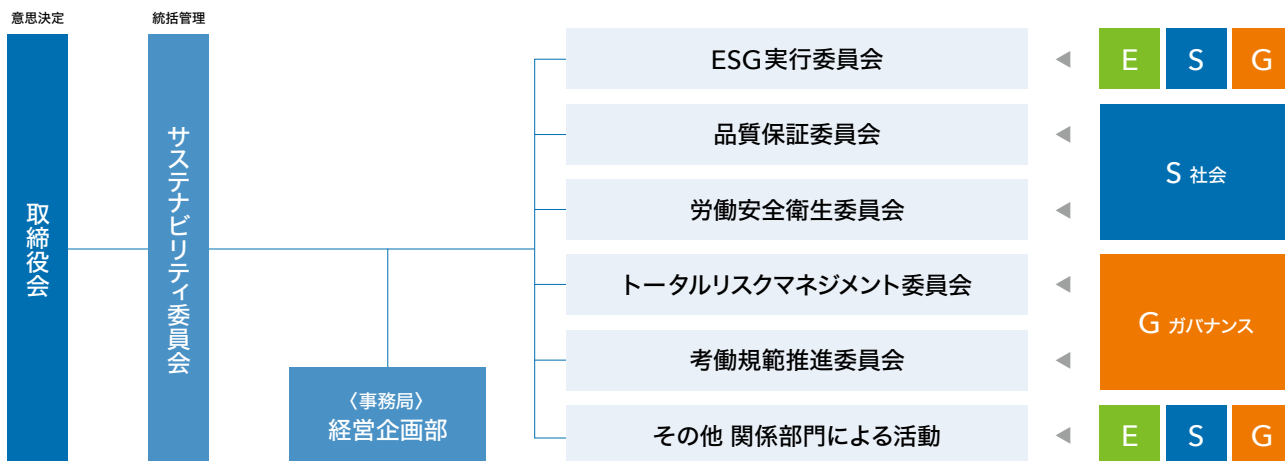
	マテリアリティ	取り組みテーマ	評価指標	中長期目標		2023年度実績	
				目標値	達成年度		
強みを活かした価値創造による未来へのチャレンジ	気軽に楽しめるおしゃれ文化の創造	自分らしさを表現することへのお役立ちの深さの拡大	「自分らしさを自由に表現できる」新しい化粧品分野や生活者属性への提案件数	毎年 3件以上	毎年	6件	
			生活者課題解決につながる新たな技術提案件数	2021年～2027年の累計 35件以上	2027年	累計 16件	
		おしゃれ文化の創造に関する人材育成	考働原則 (MANDOM PRINCIPLES) の実践率	80%以上	2027年	68%	
	多様な生活者へのお役立ち拡大	お役立ちの広さの拡大	流通網拡張に向けたチャレンジ数	毎年 13件以上	毎年	102件	
			社員と会社の相互成長の実現	チャレンジする風土の醸成	理念サーベイによる「活躍社員」比率	38%以上	2027年
	多様な人材の活躍	従業員エンゲージメント		毎年 81%以上	毎年	70%	
		女性管理職比率		女性管理職比率20%以上 (マンドム単体)	2027年	12.8%	
	社会と企業の持続可能性の実現に向けた課題解決	持続可能な地球環境への取り組み	脱炭素社会への取り組み	スコープ1+2におけるCO ₂ 排出削減量(2013年度比)	日本、海外におけるCO ₂ 排出量(スコープ1+2)を2013年度比で43%以上の削減	2027年	22.0%削減
				CO ₂ 排出量ネットゼロの実現	2050年ネットゼロに向けたシナリオが完成している	2027年	海外各社におけるスコープ3算定に組み込み中
				化石資源由来のバージンプラスチック排出抑制率	25%以上	2027年	4.0%
製品の環境配慮			自社基準による環境配慮製品比率	国内商品の90%を環境配慮製品(自社基準クリア)とする	2027年	61.3%	
廃棄物削減		製品・販促物廃棄物の削減率(2022年度比)	65%以上	2027年	20.4%		
持続可能な原材料調達		パーム油	原料の起源となるパーム油におけるRSPO※1認証パーム油比率	福岡工場で使用するパーム由来原料について、RSPO※1認証パーム油(ブックアンドクレーム対応を含む)を100%とする	2026年	50.2%	
		紙製容器包装	紙製容器包装のFSC※2認証紙、古紙再生紙比率	紙製容器包装の全量をFSC※2認証紙、古紙再生紙とする	2027年	93.8%	
企業基盤の継続強化		安心・安全・高品質の提供	品質に関するご指摘件数	重大ご指摘数 0	毎年	0件	
		社員の安心・安全	長期休業者数	10名未満(日本国内)	毎年	9名	
		データセキュリティ強化	サイバーセキュリティ経営ガイドラインへの対応	重要10項目すべてに対応できていること	2027年	達成度62%	
	理念経営の実践	理念をベースにした全社員による個々の業務判断の実践率	80%以上	2027年	64%		

※1 RSPO : Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油に関する円卓会議)
 ※2 FSC® : Forest Stewardship Council® (森林管理協議会) (FSC®N003667)

■ サステナビリティ推進体制

わたしたちは、サステナビリティ推進体制の強化を目的として、社長執行役員を委員長とする「サステナビリティ委員会」を設置し、マンダムグループのサステナビリティ推進の考え方を

をまとめるとともに、関連する委員会や会議などを通じて関係部門との協議を行いながら、社会の持続可能な発展への貢献に向けた取り組みの強化を行っています。



WEB : サステナビリティ情報
 : サステナビリティ > サステナビリティ方針・体制・目標

サステナビリティ委員会および各傘下委員会の活動内容

委員会名	2023年度活動テーマ
サステナビリティ委員会	<ul style="list-style-type: none"> マテリアリティに関する中長期目標の進捗管理 傘下委員会の活動状況の評価・分析・改善提案等統括管理 マテリアリティの見直し検討
ESG実行委員会	<ul style="list-style-type: none"> マテリアリティに基づく具体的な取り組みテーマの検討、推進管理 取り組みテーマに関連した中長期目標の検討、進捗管理
品質保証委員会	<ul style="list-style-type: none"> 品質保証規程に基づくマネジメントレビューの実施 顧客からの申し出総括 品質課題への対応 安全性に関わる報告 自主回収報告および対応時の課題と対策 品質教育および内部品質監査の実施報告および2024年度計画
労働安全衛生委員会	<ul style="list-style-type: none"> 社員が生き活きと活躍できる体制づくり 社員のヘルスリテラシー向上に向けた取り組み
トータルリスクマネジメント委員会	<ul style="list-style-type: none"> ウイルスによる機密情報漏洩対策 ヒト倫理試験委員会(分科会)の推進 MID・RIDA BCPの策定 展開各国の有事リスク対応 情報セキュリティ管理体制の構築・運用
考働規範推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な考働規範全社教育の実施 内部通報制度の周知徹底施策の実施